

H20.3.27 設楽ダム魚類検討会 議事概要

日 時：平成20年3月27日(木) 15時30分～18時00分

議事概要：

表 H20.3.27 設楽ダム魚類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	委員の主な意見	意見に対する回答
1.魚類検討会の経緯について	・過去の検討経緯について確認した。	・特になし	・特になし
2.豊川水系のネコギギの保全について	・豊川水系全体のネコギギの保全のあり方について事務局(案)を提示した。	・設楽ダム関連の部分以外は、本検討会に関係してこないのか、後の残りは放置されているのか、気にかかる。	・事務局：ダム事業者が行うのはダムのある上流域であるが、今後、流域全体の保全を担う主体が必要と考えている。
		・全体を見据えるのであれば、どう展開するかを記載して欲しい。	・事務局：主体となる地域、団体が形成された後、その主体に全体の保全について提案していく、といった内容を記載する。
		・下流河川への対応方針の具体的内容は何か。	・事務局：影響予測の向上、モニタリング手法とその対応の向上、それでも保全がうまくいかない場合の対応(保険)の3点とする。
3.平成19年度の野外実験について	・平成19年度の野外実験結果の報告及び平成20年度の放流計画(案)について事務局(案)を提示した。	・親魚採捕調査の影響の検討は興味深い。他所で実施している調査にも影響するテーマである。データの蓄積が望まれる。	・事務局：親魚採捕手法は、昨年度の方法を継続するが、7月の採捕は実施しない。
		・平成19年は2ペアで放流するかどうか検討したが、平成20年に繁殖しなかった場合の対応はどうするか。	・事務局：現在飼育している稚魚を追加放流してモニタリングを行う。
		・この放流実験の目的が達成されたと言えるのはいつか。	・事務局：放流個体の存続、繁殖、定着を経て、自然個体群と同等の増殖率となったときが成功と考える。また、途中段階でも考察していく。
4.支川のポテンシャルについて	・ネコギギの生息環境の再生候補地である支川の生息ポテンシャルの検討結果について中間報告を行った。	・周辺の土地利用については整理しているか。	・事務局：過去の検討会資料で整理している。
5.人工水路実験について	・平成19年度の人工水路実験の報告及び平成20年度の実験計画について事務局(案)を提案した。	・実験ユニットの石積みでは間隙が連続しており、自然下でみるものと条件があうか検討が必要ではないか。	・事務局：実験の目的として、工法の開発に直結したデータを得ることを挙げている。このため、実際に人為的に施工できる方法をとっている。
6.平成19年度のモニタリングについて	・平成19年度の生息状況モニタリング調査結果の報告を行った。	・横穴量変動の整理では、水位ではなく流量で整理し、*なども入れて検討すること。	・事務局：今後実施する。

7.今後の調査・検討計画について	・ネコギギの保全に関する今後の調査計画案を提示した。	・特になし	・特になし
8.ネコギギ以外の希少魚の保全について	・カジカ大卵型、ナガレホトケドジョウ、イワメの保全について、事務局方針(案)を提案した。	・ネコギギ、カジカ以外の魚類については、保全対策検討を行わないのか。	・事務局：その他の魚類もモニタリングしていき、必要であれば保全措置を実施する。
		・豊川水系はナガレホトケドジョウ、ホトケドジョウが混棲しており、重要な地域と認識している。生息環境のマップ作成は是非実施して欲しい。	・事務局：今後実施する。